

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4570101669		
法人名	社会福祉法人凌雲堂		
事業所名	認知症高齢者グループホーム悠悠		
所在地	宮崎県宮崎市大字跡江2366番地 (電話) 0985-48-3261		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成20年11月28日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは宮崎市郊外の田園風景の中にある。隣接して介護老人福祉施設や養護老人ホームがあり、近くに同系列の医療法人として介護老人保健施設等がある。介護経験の豊富な職員の利用者に対する穏やかで笑顔の絶えない対応は、利用者が安心して穏やかな毎日を送ることのできる環境が整っている。また、職員の介護に対する前向きな努力があちこちにうかがえる。運営推進会議には地区の代表者も参加しており、着実に地域に密着したホームとして踏み出している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 運営推進会議は2か月に1回開催されている。議題に自己評価及び外部評価の結果を報告し、検討を重ね改善につなげる取り組みに期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価は職員全員で行い、まとめたものである。職員は評価の意義を十分理解できている。また、外部評価の結果は全職員で討議し改善に向けた取り組みができています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 2か月に1回開かれる運営推進会議に近隣地区を2つに分けた地区代表が交互に参加してもらっている。地域からの建設的な意見や家族からの希望については前向きにとらえ希望に沿うようにしている。時には議題を決めず意見交換の形を取り、会議を進めこともある。各委員からさまざまな意見が出され、出された意見は検討・改善に向けた取り組みがされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 運営推進会議には家族の代表も参加するため、ホームに対する理解も十分に浸透しており、意見・苦情は少ない。家族懇談会を年1回設けており、その中から率直な意見が引き出せる雰囲気作りを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地区公民館の文化祭に作品を出したり、地区の老人クラブの訪問が定期的であり、茶話会が開かれている。また、時折近隣住民の訪問もあり、少しずつではあるが交流が広がりつつある。

【情報提供票より】（平成20年9月16日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 4年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人, 非常勤0人, 常勤換算7人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	1階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,650 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	480 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		円	

（4）利用者の概要(平成20年9月16日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2	要介護2	1		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	1		
年齢	平均 84.4歳	最低	77歳	最高	91歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	潤和会記念病院、宮崎若久病院
---------	----------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本とし、平行してホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を深く理解し、常に笑顔を忘れずに利用者に寄り添い、触れ合うケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区公民館の文化祭に作品を出したり、また、老人クラブの方々の訪問、ボランティアの受け入れ等、少しずつではあるが地域住民との交流が広がりつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価においては全職員で検討・協議され、外部評価についても理解できている。また、昨年度の外部評価の結果についても検討・協議をし改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開かれている。各委員の中から出された意見や要望を前向きにとらえ、サービスの向上に努めている。また、地域の中のホームとして理解を深める取り組みがされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人として市の担当者との連携は取れており、折に触れホームの近況報告、相談等はなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に、日々の暮らしぶりや健康状態などを報告している。お金を預かった際は、確認印をもらっている。	○	お金を支出した際の個別出納帳にも、家族の確認としてのサインまたは印鑑が欲しい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のほかに家族懇談会等で相談や意見を聞く場を設け、内容によっては職員と話し合い検討し、家族の納得のいくよう対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に不安を与えないように、職員の異動は最小限にとどめる工夫がされている。法人内での異動が時折行われるが、事前にホームに足を運び利用者とのかかわりを持つ工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して職員全員が均等に研修を受けられるように配慮している。研修の結果は職員会等で報告を行い、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ利用者と共に、定期的な相互訪問を行っている。交流の中でお互いに学びあいサービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを利用する前に家族と一緒にホームの見学、利用者の生活の様子、環境などを見ていただく等、納得したうえで入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の不安や喜びを日々の暮らしの中から見だし、時には学び共感し合い、共に支えあう関係作りをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中から利用者の声に耳を傾け、言葉や表情から一人ひとりの思いをくみ取り、本人の意向に沿えるように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者を含む職員全体会議を行い、利用者の日常生活、家族の意見またアセスメントやモニタリングを重ね、職員の意見を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しがされ、また、状況の変化により随時の修正または見直しがされている。見直された計画は利用者と家族に説明し同意が得られている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、墓参り、留守中の家の見回りのための帰宅支援など、利用者の要望にあわせ柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な場合には職員が代行している。嘱託医の往診も毎月行われており、医療機関との連携を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が入居する際に、利用者ならびに家族に対し利用者の重度化、また、終末に対するホームの対応方針の説明を十分行っており、同意を得ている。また、系列の介護老人福祉施設、医療法人に介護老人保健施設等があり、連携を密にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重し、プライドを傷つけない言葉かけにも、利用者に対する気配りが感じられる。また、個人情報の取り扱いに関しては徹底した管理が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしが利用者のペースで流れており、職員もまたそのペースに合わせてながら、利用者の希望に沿って側面的な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は利用者と職員が一緒に行っている。職員はさりげない介助や目配りをしながら同じテーブルで同じものを食し、語りながら食事の時間が楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、午後からであるが、利用者の希望の時間に入浴ができるよう支援をしている。また、毎日の入浴を希望する利用者に、柔軟に対応できる取り組みを検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、庭の手入れ、また趣味の裁縫や音楽の好きな利用者のオルガン演奏と、経験や知恵、持っている力が発揮できる支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外食、ドライブにでかけたり、その日の食材の買い物や利用者の希望で自宅に帰る支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は掛けていない。利用者が外出する様子があればさりげなく声掛けをし、また一緒について行く等の配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年に2回実施している。同敷地内の施設の訓練にも利用者と共に参加している。マニュアルも作られている。	○	地域住民の協力が得られるよう、自治会、運営推進会議等に働きかけ、共に災害訓練が実施されることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は一人ひとりの水分量、食事量を記録に取り把握している。また、栄養士の献立によりカロリーのバランスが取れたものになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく柔らかな光と、風通しの良い広いリビングには、利用者が一日をゆったりと過ごせる空間となっている。台所で食事の準備をしながら会話もはずみ、季節を感じさせる花々をテーブルに飾るなど豊かな気持が現れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は毎日の生活の場として、それぞれ使い慣れた家具などが持ち込まれ、家族の写真や観葉植物などが置かれている。部屋からは田畑が眺められ、居心地よく過ごせる場所になっている。		

※  は、重点項目。